

「せっかくやるなら、どうせやるなら・・・」

浜嶋です。

おはようございます。

仕事をしているときに、1番になる目標があると楽しいです。私は、コンピュータ・グラフィックス（CG）技術の仕事への応用をやっていました。土木出身ですが土木にも建築にも応用方法を考えて、土木現場の施工状況のアニメーションビデオを作ったり、建築では、後期及び前期難波の宮、三重県丸山千枚田、橿原市今井町の復元を行いました。

これらCG関連の論文コンテストで、日本で一番（特選論文受賞）を2回取ったことがあります。

話は変わりますが、神戸製鋼所の故平尾誠二さんと一緒にしていたスポーツNPOでは、スポーツの有名人をお招きしてインテリジェンス講座を開催しています。バルセロナ五輪の女子マラソンで銀メダルを取った有森裕子の言葉が記憶に残っています。「せっかくやるなら一生懸命やろうと思った」という言葉です。

私は、ボーイスカウト活動では、毎回、「せっかく参加するんだから一生懸命やるぞ」と工夫しています。他に使える時間を「今日はこれをやる」とせっかく決めたのだから、一生懸命やらないともったいない。今の参加時間は、将来の自分につながる時間です。

私たちは、スカウトの教育の中で、プログラムを楽しんだり、技能の訓練をすることの他に、基本的な行動を当たり前できるように継続的に指導をしています。スカウトが早く実現できるようにしてあげたいという気持ちから実施しています。その目標は、「自分から挨拶ができること」、「大きな声で返事ができること」、「大きな声で歌が歌えること」、「5分前集合を心がけて遅刻しないこと」、「終了時間を守ること」などです。

指導者によって目標の高さはまちまちです。目標を達成させる気持もまちまちです。私は、一番になることを目標にしています。そのためには、どのようなコーチングをすればいいかを考えます。有森裕子の「せっかく」は、コーチングの一部として紹介しました。スカウトが自覚して、自主的に行動できるようにしたいですね。これは、特に年少隊の保護者の願いだと思います。実現するためにどんなコーチングをすればいいかを、指導者と保護者が協力して考えるといいですね。団委員会は、指導者が思い切り指導に打ち込める環境を作

ります。

来るスカウト祭の開会儀礼では、日頃の訓練の成果を発揮してほしいです。スカウトの基本行動を発表できる場です。私は、毎回成長を楽しみにしています。ボーイスカウト活動の場は、自己を成長させたり、自己実現できる貴重な体験の場になります。教育活動を行っているから、保護者の支持があると思っています。「制服を整える」、「時間を守る」、「大きな返事をする」、「大きな声で連盟歌を歌える」ことを期待しています。

団行事は、団委員会の各隊への訓練の場だと思っています。だから団からお願いをしています。各隊は、団委員会や保護者に対する発表の場です。指導者の心意気を保護者に伝えてください。団行事が訓練の場と言うのは、団、各隊が地区に参加する場合には豊中第2団の発表の場になるからです。これまで、各隊は地区プログラムで優秀な成績を上げてきました。この時に、大きな声で返事ができるか、祝声で「弥栄」がきちんと動作ができるかは、団の訓練の成果になります。団は、地区の場で各隊が優秀な成績と、当たり前動作ができることを目標にしています。そのために、団行事の場で各隊がきちんとできるように指導を行うのです。

「せっかく」ボーイスカウトで活動しているのです。どうせやるなら、個人、隊、団が、それぞれに高い目標を持って、それを実現させましょう。